

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						2.6	
Q1 室内環境			0.40	-	-	2.7			
1 音環境		2.6	0.15	-	-	2.6			
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.40	-	-				
1.2 遮音	-	3.0	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能	-	3.0	0.30	-	-				
2 界壁遮音性能	-	3.0	0.30	-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	3.0	0.20	-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	3.0	0.20	-	-				
1.3 吸音	-	1.0	0.20	-	-				
2 温熱環境		2.6	0.35	-	-	2.6			
2.1 室温制御	-	3.0	0.50	-	-				
1 室温	-	3.0	0.60	-	-				
2 外皮性能	-	3.0	0.40	-	-				
3 ゾーン別制御性	-	3.0	-	-	-				
2.2 湿度制御	-	1.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式	-	3.0	0.30	-	-				
3 光・視環境		2.5	0.25	-	-	2.5			
3.1 昼光利用	-	2.4	0.30	-	-				
1 昼光率	-	2.0	0.60	-	-				
2 方位別開口	-	-	-	-	-				
3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	-	-				
3.2 グレア対策	-	2.0	0.30	-	-				
1 昼光制御	-	2.0	1.00	-	-				
3.3 照度	-	3.0	0.15	-	-				
3.4 照明制御	-	3.0	0.25	-	-				
4 空気質環境		3.4	0.25	-	-	3.4			
4.1 発生源対策	-	4.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	告示対象外建材およびF☆☆☆☆以外の建材は使用しない。	4.0	1.00	-	-				
4.2 換気	-	2.6	0.30	-	-				
1 換気量	必要換気量を30m ³ /h人で設定した	4.0	0.33	-	-				
2 自然換気性能	-	3.0	0.33	-	-				
3 取り入れ外気への配慮	-	1.0	0.33	-	-				
4.3 運用管理	-	3.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視	-	3.0	0.50	-	-				
2 喫煙の制御	-	3.0	0.50	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.0			
1 機能性		2.7	0.40	-	-	2.7			
1.1 機能性・使いやすさ	-	3.0	0.40	-	-				
1 広さ・収納性	-	1.0	-	-	-				
2 高度情報通信設備対応	-	3.0	-	-	-				
3 バリアフリー計画	-	3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性	-	2.0	0.30	-	-				
1 広さ感・景観	-	3.0	0.50	-	-				
2 リフレッシュスペース	-	3.0	-	-	-				
3 内装計画	-	1.0	0.50	-	-				
1.3 維持管理	-	3.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.4	0.30	-	-	3.4			
2.1 耐震・免震・制震・制振	-	3.8	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	重要度係数を1.25としている。	4.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数	-	3.0	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	3.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性	-	3.4	0.20	-	-				
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備	-	2.0	0.20	-	-				
3 電気設備	高圧は2系統受電を行っている。	4.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法	設計用水平震度を2.0としている	5.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備	-	3.0	0.20	-	-				

3	対応性・更新性		3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 空間のゆとり		3.0	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	-	3.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	-	3.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.2
1	生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.2
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制	壁・屋根に用いる断熱材は厚さ50mmとした。	4.2	0.20	-	-	4.2
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	太陽光パネルを設置角度20° 南向きに設置している。	3.6	0.50	-	-	3.6
	集合住宅以外の評価		3.6	1.00	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4	効率的運用		2.0	0.20	-	-	2.0
	集合住宅以外の評価		2.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	1.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.0
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	水洗式大便器の洗浄水量を6L/回以下としている	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.0	0.60	-	-	3.0
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.1
1	地球温暖化への配慮	BEI=0.5を目指して省エネに配慮した。	4.2	0.33	-	-	4.2
2	地域環境への配慮		2.3	0.33	-	-	2.3
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	○	-	-	-	-	-	○	-	○	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0								○	○	○	○	-	-	○
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	3.0	3.0	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	-	1.0	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	2.0		-	-	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	3.0		-	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	ηAC
屋光率	ηAH	-	-

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面積率 -

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	-	/人	病床	-	/床	シングル	-	ツイン	-
--------	---	----	----	---	----	------	---	-----	---

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 - VA/m²

1.2.1 広さ感・景観

天井高 - m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース - レストスペース -

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 - 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 - 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 - 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 - 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 - m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 -

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m²

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 - 建物緑化指数 -

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 - 水平投影面積率 - 地表面対策面積率 - 舗装面積率 -

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m 0.88 断熱等性能等級 対象外 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 - MJ/年m² 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 -

3 設備システムの効率化

太陽光 49.2kW 太陽熱等 - 蓄電池 5.0kW

非住宅部分

BEI/BEI_m 再エネ有 0.50 無 0.54 オフサイト再エネ有 - -

集合住宅の評価

一次エネ削減率 再エネ有 無 - -

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 -

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 リサイクル硬質塩・エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 -

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 - 隣棟間隔指標R_w -

地表面対策面積率 - 屋根面対策面積率 - 外壁面対策面積率 -

見付面積S_b - 卓越風向と直交する最大敷地幅W_s - m 基準高さH_b - m

緑地 m² 水面 m² 保水性対策面 m² 高反射対策面 m² 再帰性反射対策面 m²